

平成20年10月
市川市定例教育委員会会議録

市川市教育委員会

平成20年10月定例教育委員会会議録

- 1 日 時 平成20年10月2日(木) 午後2時00分 開議
- 2 場 所 第5委員会室
- 3 日 程
 - 1 開会
 - 2 会期の決定
 - 3 議事日程の決定
 - 4 会議録署名委員の指名
 - 5 議案第16号 平成20年度市川市教育功労者の決定について
議案第17号 市川市スポーツ振興審議会委員の委嘱について
 - 6 報告第15号 市川市社会教育委員の委嘱について
 - 7 その他
 - (1) 平成20年9月定例市議会について
 - (2) 市川市こども作品展・新聞展の開催について
 - (3) 市川市児童生徒音楽会の開催について
 - (4) 市川市児童生徒科学展について
 - (5) 平成20年度「成人の日の行事」実行委員会の経過について
 - (6) 考古博物館企画展の開催について
 - (7) 自然博物館夏の企画展について
 - 7 閉 会
- 4 本日の会議に付した事件
 - 1 議案第16号 平成20年度市川市教育功労者の決定について
議案第17号 市川市スポーツ振興審議会委員の委嘱について
 - 2 報告第15号 市川市社会教育委員の委嘱について
 - 3 その他
 - (1) 平成20年9月定例市議会について
 - (2) 市川市こども作品展・新聞展の開催について
 - (3) 市川市児童生徒音楽会の開催について
 - (4) 市川市児童生徒科学展について
 - (5) 平成20年度「成人の日の行事」実行委員会の経過について
 - (6) 考古博物館企画展の開催について
 - (7) 自然博物館夏の企画展について

5 出席委員 五十嵐 芙美子
吉岡 博之
宇田川 進
西垣 惇吉

6 欠席委員 井関 利明

7 出席職員、職・氏名

教育次長	松永 潤	教育総務部長	小川 隆啓
生涯学習部長	田口 修	教育総務部次長	栗原 久則
学校教育部次長	山崎 繁	生涯学習部次長	浮ヶ谷 隆一
教育政策課長	青木 一雄	人事福利担当室長	山田 修一
就学支援課長	松本 辰夫	教育施設課長	渡邊 静男
義務教育課長	古山 弘志	指導課長	高橋 邦夫
保健体育課長	西川 裕二郎	教育センター所長	伊東 秀樹
生涯学習振興課長	齋藤 忠昭	地域教育課長	浅岡 裕
青少年育成課長	曾根 洋次郎	公民館センター長	堀切 公雄
中央図書館長	露木 芳輝	考古博物館長	石毛 一成
自然博物館長	西 博孝	スポーツ推進課長	賀田 厚彰

8 事務局職員、職・氏名

教育政策課	主 幹	大嶋 章一
〃	副主幹	谷内 弘美
〃	主 任	堀 優子

○ 五十嵐委員長

ただいまから、平成20年10月定例教育委員会を開会いたします。本日の会議は、委員の過半数が出席しておりますので地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定により成立いたしました。この定例会の会期は、市川市教育委員会会議規則第3条第2項の規定により、本日1日といたします。それでは、日程に従い議事を進めます。会議録署名委員の指名を行います。会議規則第39条の規定により、会議録署名委員は委員長、吉岡委員、宇田川委員を指名いたします。続きまして、議事5議案に入ります。議案第16号 平成20年度市川市教育功労者の決定についてを議題といたします。それでは、提案理由の説明を求めます。

○ 教育政策課長

資料は1ページから11ページになります。本案は、表彰候補者選考委員会において個人8名、団体1団体が平成20年度の表彰候補者として決定されたことから、市川市教育功労者表彰規定第6条第2項の規定により提案するものでございます。表彰者決定までの手続としましては、各所属課長からの推薦のあった候補者を表彰候補者選考委員会に諮ります。この選考委員会は、教育長、教育次長、各部長、各次長の8名で構成されており、このたび表彰候補者が決定いたしましたので、本日教育委員会に諮り、表彰者の決定をするものでございます。候補者の推薦については、8月下旬を期限とし、各所属課長に依頼しました結果、今年度は9件の推薦がありました。内訳は、学校教育部より教職員学校関係7名、生涯学習部より博物館関係の1名と1団体となります。選考委員会は9月10日に開催し、選考に当たっては、文部科学省などの上位団体において表彰を受けている場合は推薦しないこと、教職員については、年数だけでなく功績内容を慎重に検討し、極力在職中に推薦すること、学校医関係については、医師会などに推薦を依頼した者は、そのまま推薦することといたしました。その結果、推薦を受けた9件が全会一致で表彰候補者として決定いたしました。次に、表彰候補者の主な功績についてご説明申し上げます。3ページをごらんください。松丸ひろ子様は、図画工作の振興に努め、地域との連携を図り、地域と一体となって子どもたちの健全育成に尽力した学校教育での功績でございます。次に4ページをごらんください。清田眞澄様は、国際理解教育、国語教育、PTA活動、家庭教育の振興充実を図るなど、学校教育に尽力した功績でございます。次に5ページをごらんください。齋藤純様は、英語教育の推進、千葉県との国際交流に寄与した学校教育での功績でございます。次に6ページをごらんください。井上礼子様は、道德教育の推進、教員の道德事業力向上に尽力した学校教育での功績でございます。次に7ページをごらんください。栗原生子様は、多年にわたり本市学校医として学校保健、健康教育に尽力した功績でございます。次に8ページをごらんください。嶺脇靖様については、多年にわたり本

市学校歯科医として歯科保健指導と健康増進に尽力した功績でございます。次に9ページをごらんください。稲上敏彦様は、多年にわたり本市学校薬剤師として学校保健活動の推進と発展に尽力した功績でございます。次に10ページをごらんください。山崎秀雄様は、自然博物館開館準備会委員として基本構想、展示内容の検討を行うなど、博物館事業の振興と充実のために尽力した功績でございます。次に11ページをごらんください。団体として考古博物館火おこしボランティアは、縄文時代の体験学習として火おこしの指導をボランティアで行い、学校教育や市民文化の向上に尽力した功績でございます。以上です。よろしくご審議のほどお願いいたします。

○ **五十嵐委員長**

以上で説明は終わりましたが、質疑はございませんか。

○ **吉岡委員**

この表彰を受ける候補者は、校長とか教員が受けているのは、これを読むとそれぞれいい仕事をされていて、非常に値するものだと私個人的には思います。毎年言っていることですがけれども、例えば医師会や歯科医師会とか薬剤師会に推薦を願いますと、永年やっているということで大体選ばれています。校医としてこういうことをやって、こういう指導をやったという特殊なことをやっている方が表彰されるのだったらいいと思うのですけれども、どちらかというとも長年やっているからということで表彰されている例が多いのです。この方たちがそうかどうかわかりませんが、そういう意味で、推薦を願うときに、ただ長年やっているというだけではなくて、学校のために校医としてこういうことをやったということがある人を推薦していただくようにしてもらって、場合によっては適当な該当者なしということでもいいと思います。推薦していただくときに、長年ということだけではなくて、学生の健康のために寄与した面があるということで推薦していただくと助かるとつけ加えて推薦を依頼したほうがいいのではないかと思います。

○ **五十嵐委員長**

学校医さんは忙しい時間を割いて長年お世話になりますよね。

○ **保健体育課長**

今、吉岡委員からいろいろとご指導いただきましたけれども、学校医の先生方にはふだんから、最近では伝染病の問題とかインフルエンザ、あるいははしかの問題で、学校の校長としては真っ先に話ができて、判断をゆだねるには非常にいいわけです。そういった面から、学校はいろいろな先生方にお力添えをいただいているということで、ここの表にはつけておりませんが、医師会や歯科医師会、薬剤師会の先生方には、学校の運営に活躍していただいているという面からでも表彰に値するのではないかと思います。今後また医師会の先生方とも相談しながら進めてまいりたいと思います。

○ **吉岡委員**

医師会の内部では、市川の医師会では推薦するときに、ただ長年やっているからということで選ぶのはやめようではないかということで了解しています。ただ、歯科医師会と薬剤師会はわかりませんが、おっしゃれば同じようなことを思っていると思います。

○ **五十嵐委員長**

教育政策課長から、各課から9名の推薦と言われましたが、9名以上は挙がってこなかったということですか。

○ **教育政策課長**

そうです。

○ **五十嵐委員長**

わかりました。学校教育部がどうしても多いのですが、生涯学習のほうで、例えば私たちは公民館文化祭に行っていると、地域の方のご協力を得ながらやっているので、もっとどなたかいるのかと思ったのですが、いかがでしょうか。これぞという人がいらっしゃれば、発掘をしておいていただきたいと思います。

○ **生涯学習部長**

今回は山崎先生お1人だけなのですが、これからそういう対象も含めて、社会教育委員だとか、地域で活動されている方もたくさんいますので、そういった人たちにも門戸を広げるかどうかということも含めて検討していきたいと思います。

○ **五十嵐委員長**

ぜひよろしく願いいたします。他に質疑がないようですので、議案第16号を採決いたします。ご異議はございませんか。

○ **他の委員**

異議なし。

○ **五十嵐委員長**

異議なしと認めます。本案は原案のとおり可決いたしました。次に議案第17号 市川市スポーツ振興審議会委員の委嘱についてを議題といたします。それでは、提案理由の説明を求めます。

○ **スポーツ推進課長**

12ページをお開きください。本案は、市川市スポーツ振興審議会委員の任期が本年の9月30日をもちまして満了となることから、新たな委員を任命する必要がありますので、提案をするものでございます。委嘱者の名簿案については13ページをごらんください。委員総数は10名でございます。うち再任される方が3名、新しく委嘱される方が7名でございます。新しく委嘱される方々について簡単に説明をさせていただきます。表のナンバーごとに説明をさせていただきます。黒く塗ってあるところが新任の方でございます。ナ

ンバー2でございますが、市川市立第三中学校校長、玉井令二氏でございます。玉井氏については、長年教職員として奉職をされ、また、市川市剣道連盟の常任理事としても活躍をされております。続きまして、ナンバー3の千葉商科大学商経学部教授の北川駿氏でございます。北川駿氏については、千葉商科大学のバスケットボールの顧問として長年学生の育成に携わってこられております。市川市との包括協定の中でもスポーツ分野の関係でご活躍をされております。続きまして、ナンバー4、東京医科歯科大学教養部の教授でございます水野哲也氏でございます。水野氏については、財団法人日本テニス連盟の強化委員として長年活躍をされております。また、教養学部でもスポーツ関係を中心に、長年指導をされております。ナンバー5、和洋女子大学生生活科学系運動生理学研究室教授の湊久美子氏でございます。湊久美子氏については、スポーツと食の関係で長年活躍をされ、また、市川市といたしましても、さまざまな関係でご協力をいただいている方でございます。続きまして、ナンバー6の松本晴美氏でございますが、松本晴美氏については、昭和学院短期大学の教授でございます。松本氏については、栄養学を専攻されておられ、特にメタボリックシンドロームなどの研究を長年されている方でございます。1号委員が以上5名でございます。続きまして2号委員、関係行政機関といたしましては、ナンバー8、市川市体育協会副会長の松村茂氏でございます。松村氏については、日本フォークダンス連盟の参与として活躍をされ、また、市川市体育協会の副会長として長年活躍をされております。最後になりますが、ナンバー10、勝又達彦氏でございます。勝又達彦氏については、現在、千葉県小・中学校体育連盟市川・浦安支部の委員長として活躍されております。以上、新任の方が7名でございます。男女別で見ますと、男性7名、女性3名の構成比率になっておられ、女性が30%でございます。また、今まで当審議会の委員としてご尽力いただきました和爾彌榮子氏、10期20年、石井四郎氏、7期14年、伊藤喜之氏、5期10年、牧勇次郎氏、4期8年、藤岡経子氏、4期8年、林喜美子氏、3期6年、岩渕信世氏、1年3カ月、7名の委員の方々については、今期をもちまして退任されます。また、今回の委嘱期間でございますが、退任される方々、委員の入れかえの方々が7名ございまして、その7名の方々の関係上、どうしても一月ずれてしまいました。そのずれた理由については、委嘱の関係で手続が変更になったことでございます。それをもちまして、今回の委員の委嘱については、平成20年11月1日から平成22年10月31日までの2年間とさせていただきますと考えております。よろしくご審議のほどお願いをいたします。審議会委員名簿案でございますが、委嘱期間が20年11月1日から22年10月30日になっておりますが、申しわけございません。10月31日ということで訂正をお願いいたします。以上、簡単ではございますが、提案説明でございます。

○ **五十嵐委員長**

以上で説明は終わりましたが、質疑はございませんか。

○ **吉岡委員**

かなり入れかわって、とてもよかったのではないかと思います。このスポーツ振興審議会ではどんな話し合いをするのですか。

○ **スポーツ推進課長**

スポーツ振興審議会の中では、昨年計画をさせていただいたスポーツ振興基本計画と、その進行状況を主にご検討いただくというふうに考えております。また、そのような形で進めさせていただいております。

○ **五十嵐委員長**

メンバーが大幅にかわったというのは意図してですか。

○ **スポーツ推進課長**

先ほど年数を簡単に述べさせていただいたのですが、4期8年を基本的な考え方の限度とさせていただこうということで進めさせていただきました。その中で長年務めていただいた方々が大勢いらっしゃいましたので、今回このように進めさせていただきました。その中で今回の特徴といたしましては、市川市内にある大学の学識経験者の方々から多数選抜をさせていただいたという状況でございます。

○ **宇田川委員**

スポーツ振興関係については市長部局に移っていますよね。委員を委嘱することとの関係はどのようになっているのでしょうか。

○ **スポーツ推進課長**

スポーツ振興法の中におきましては、スポーツ振興審議会の委員の委嘱は教育委員会の議を経なければいけないということになっておりますので、法律上は、まず教育委員会の審議を経た上で市長部局で任命をするという流れになっております。

○ **宇田川委員**

わかりました。

○ **五十嵐委員長**

審議会に教育委員会も諮問するものは出していいのですね。

○ **スポーツ推進課長**

おっしゃるとおりです。スポーツ関連は小中体連も入っておりますので、当然、議については教育委員会からの議でも問題はございません。

○ **五十嵐委員長**

よろしく願いいたします。他に質疑がないようですので、議案第17号を採決いたします。ご異議はございませんか。

○ **他の委員**

異議なし。

○ **五十嵐委員長**

異議なしと認めます。本案は原案どおり可決いたしました。続きまして、議事6報告に入ります。報告第15号 市川市社会教育委員の委嘱についての説明を求めます。

○ **生涯学習振興課長**

お手元の資料14ページ、15ページをお願いいたします。市川市社会教育委員については、平成20年9月30日に任期満了になることから、各種団体に推薦依頼をしておりましたが、推薦書及び内諾書が整わなかったため、9月定例教育委員会に提出が間に合わないということで、今回10月1日付で委嘱するために、本日審議をお願いするものでございます。市川市教育委員会事務委任規則第2条第1項の規定に基づきまして、臨時代理により委嘱をお願いしたものであり、同条3項の規定により報告するものであります。委嘱しました委員の構成としましては、1号委員として学校教育の関係者3名、2号委員として社会教育の関係者6名、3号委員として家庭教育の向上に資する活動を行う者2名、4号委員として学識経験者4名となっております。今回、3名の委員の交代がございました。内訳でございますが、1号委員の学校教育の関係者である学校法人市川学園中・高等学校の前校長、浅田穰委員にかわりまして、同校の現在の校長でございます古賀正一氏を、同じく1号委員の県立国分高等学校校長、小菅雅幸委員にかわりまして、県立国府台高等学校校長、大島健一氏を、2号委員の社会教育の関係者である捧陽子委員にかわりまして、連合千葉市川・浦安地域協議会副議長、西原純子氏でございます。他の12名の委員は再任となっております。なお、任期は平成20年10月1日から平成22年9月30日となっております。このことによりまして、全体で男性委員は10名、女性委員は5名となり、女性委員の構成比率は33.3%となります。また、委員の最高年齢は78歳、最小年齢は32歳で、平均年齢は59.7歳となっております。以上でございます。

○ **五十嵐委員長**

以上で説明は終わりましたが、質疑はございませんか。質疑がないようですので、報告第15号を終了いたします。続きまして、議事7その他に入ります。(1)平成20年9月定例市議会について報告してください。

○ **教育次長**

議会の日程は9月5日から9月24日の20日間でした。今議会から議案質疑及び一般質問の形式が大きく変わりました。お手元の資料の4ページ、5ページにありますけれども、大きな変更点は、まず議案質疑、一般質問に一問一答制が導入されたことです。通告項目の1つずつについて問答を繰り返し、終わったら次の項目、質疑、質問に進んでいくという形式が、議員の選択により行われるようになったことです。したがって、議員は通告時に、従来どおりすべて総括、今までどおりにやるか、または初回だけ総括でやって、

あとは一問一答でやるか、または初めからすべて一問一答でやるかを選択して質問に臨みます。それが大きな改正点でしたけれども、今回は余り大きな混乱はなかったようでございます。もう1つ、議案質疑の質疑時間が会派ごとに配分されました。会派は与えられた持ち時間内において、それぞれ代表者が、または分担、または全員が質問するなりして、その持ち時間の範囲内で会派で自由に質問形式を選択して質問するようになりました。以上が今議会からの大きな変更点でございます。議会の内容ですけれども、議案関係では、補正予算以外には特に教育委員会関係の議案はなく、補正予算に対する質問も、学校支援地域本部事業や英語活動等国际理解活動推進事業などの事業内容の概要を問うような質問でございました。一般質問ですけれども、32名の議員から一般質問があり、教育委員会関係は10名の議員から質問がありました。主な質疑内容は、通告書の抜粋にあるような内容でした。簡単にご説明しますと、教育総務部関係では、子育て支援にということで、幼稚園における預かり保育の今後についてという質問がありました。次に学校教育部関係では、1つは、突然の心肺停止や新型インフルエンザ等の突然の事態に対して市立小中学校において非常対応マニュアルをつくりなさいという質問が、違う立場から3名の議員からありました。次に全国学力・学習状況調査について、その結果の扱いや情報公開について、今後の実施に慎重を期すようにという質問が2名の議員からありました。学校給食については、物価高騰が保護者の負担増につながらないようにという質問と、調理業務委託の状況を問う質問がありました。給食費については、今年度中は現状維持で努力していくという旨と、来年度は、現在のところ値上げせざるを得ない状況もあるというところまで説明して答弁しております。次に、持続可能な開発のための教育（E S D）についてということで、主に環境教育の重要性を問う質問がありました。キャリア教育についてということでは、職場体験の現状と課題を問うということで、学校現場は職場体験の体験場所を探すのに苦労しているのではないかとという質問がありました。また、外国語を母語とする子どもたちへの対応を問う質問、それから中学生の海外派遣のあり方について問う質問では、高校受験を控えた中学校3年生の派遣にはぜひ配慮してほしいという質問がありました。生涯学習部関係では、放課後保育クラブについて、今後の指定管理者選定のあり方と、保育時間の延長の考え方について問う質問があり、また、W e b 図書館（電子図書館）の創設についてということで、今後の導入の方向性を問う質問、曾谷公民館について、施設改修の考え方ということで、一例を挙げまして洋式便所の数をもっとふやしたらどうかという質問もありました。それぞれ現状の施策や取り組みについて説明する答弁をし、理解を求めたところでございます。以上でございます。

○ 宇田川委員

会派の持ち時間制というのは、1会派で大体どのくらい持ち時間があるの

ですか。

○ **教育次長**

添付の資料にありますけれども、会派の人数によって変わります。今回は議案質疑が3日間でしたので、真ん中の列です。公明党が2時間56分から始まりまして、1人会派が30分です。ですから、3日間で大体きちっと終わるように割り振られています。今までですと、1人の議員さんが各議案ごとに自由ですから、1人で6つの議案をやると、1人に与えられた時間掛ける6つの議案ですから、その時間分だけかかるのですけれども、今度は割り振られていますので、時間がある程度読めます。

○ **宇田川委員**

国会並みになったのですね。

○ **吉岡委員**

緑風会の稲葉議員の放課後保育クラブについての(2)ですけれども、保育時間延長の考え方についてというのは、どういう質問ですか。

○ **生涯学習部次長**

具体的には延長を望んでいる声もある、延長を望まない声もあるけれども、その辺はどういうふうを考えていくのかということ。生涯学習部としましては、市民ニーズとか地域によって差がありますので、その辺は調査していきながら、ニーズに沿った形での対応を検討していきたいという内容で答えております。本来親が子どもを見るということと、子どもを放課後にどういう形で預かるのかということも含めて詰めていかないと、単純に時間延長だけすればいいのか、就労支援だけでいいのかというところが今後の課題として出てくると思います。

○ **吉岡委員**

3ページの9番の竹内議員の大規模地震に対する本市の体制その後についてというのわからないのですが、どういう質問なのですか。

○ **学校教育部次長**

直接学校教育部に問われたことについては、市の計画でも各学校が避難場所に指定されているということから、地域の方が実際に学校を使った実地の避難訓練をしたほうがよいのではないかというお考えを竹内議員さんが持っていたらっしゃいましたので、そういうことについて、教育委員会として実際に避難訓練をするときに学校は使わせてもらえるのかというご質問が1点、それと、その際に教職員等も、実際に大規模地震が起きれば子どもたちの安全を守るというのが一義でございますけれども、地域の避難場所としての運営にもかかわっていくということから、教職員が当然参集をして来るわけですけれども、そういう体制づくりについてはどうなのかということ、それと、緊急地震速報が実際に気象庁から発せられて、そういうシステムの導入について、教育委員会としての考えはどうかということでのご質問で

ございました。答弁の内容としましては、もちろん学校も避難所の運営委員の一員にもなっておりますので、そういう観点で訓練の実施の重要性については認識している旨、また、学校施設の利用については、学習活動に支障のない範囲で協力を積極的にさせていただくという旨、参集体制については、基本的にそのような体制は組んでおりますけれども、実際のところ、なかなか来られないという状況も発生しますので、そういうことを想定して、地域の方との連携、地域の方を中心に進めていただく旨、それと緊急地震速報については全庁的な課題になりますので、関係部との連携によって今後研究をしてみたいというお答えをさせていただいたところです。

○ **吉岡委員**

その下のニューガバナンスの鈴木啓一議員の中学生海外派遣事業のあり方についてというのは、どういうことを言っているのでしょうか。

○ **学校教育部次長**

中学生の海外派遣については、この会でもご報告をさせていただいているところではございますが、要項上、募集の対象となっておりますのが、基本的に2年生と3年生です。それぞれ各学校で学校長を中心に面接等を行った上で、最終的に学校から1名ずつ参加者が決まっております。その際に、希望で参加をしてもらっておりますので、学年のバランスが2年生に固まったり、年度によっては3年生が逆に多かったりということがございました。議員さんのご指摘として、3年生については次の年度に受験を控えている。まして夏季休業で塾等にも通う生徒がいるということを考えると、3年生についてはなるべくそういうことに専念してもらって、2年生を主体に行ったほうがいいのではないかと。その際、もう少し参加の幅を広げる意味で、1年生にもそういう道を開いたらどうか。そうすることで3年生が総体的に数が抑えられるという趣旨のご質問でございました。答弁の内容といたしましては、1年生については、今後要項等の見直しを図りつつ、幅については広げることが検討してまいりますという旨、3年生については、2年生の応募者数が増えるように啓発を積極的に進めていきたいという内容での答弁をさせていただきました。

○ **五十嵐委員長**

次に(2)市川市子ども作品展・新聞展の開催について報告してください。

○ **指導課長**

この事業は、市川市立各幼稚園の幼児や各小中特別支援学校の児童生徒の日ごろの学習成果の発表の場として、表現及び鑑賞活動を通して学習の充実と豊かな心を持つ子どもを育てることを目的に、昭和25年開始以来、今回で59回目の開催となります。本年度は10月30日木曜日から11月4日火曜日までの5日間、市川市文化会館の地下の展示室、大会議室において開催されます。子どもたちの作品は、図画工作科、美術科、技術科、家庭科から書写の作品

及び学校新聞、学校園の写真などが出展されます。昨年度は4日間で9,869人の来場がありました。見学された方から、どの作品も楽しく、元気よく、見ていて元気が出ました、子どもの作品は伸びやかでとてもよいものだなと改めて思いましたなどのご感想をいただきました。以上でございます。

○ **五十嵐委員長**

ぜひまたことしも見せていただきたい。指導課の人たちがセッティングをやるのですか。

○ **指導課長**

大きなものについては業者でないと危険を伴いますので、そこはやってもらいますけれども、机、いす等については、教育委員会指導課の職員でやっています。図画とか書写とかは展示数が多いので、学校の教職員にも手伝ってもらい、会場をつくっております。片づけについては、教育委員会指導課の職員でやり、学校の教職員にとりにきてもらう形をとっております。

○ **五十嵐委員長**

見ばえよく、どの作品も光るように展示するのは大変ですね。

○ **指導課長**

人員とエネルギーは確かに要りますけれども、保護者の方とかに喜んでいただいていますし、音楽会と抱き合わせにすることによって、大変多数の保護者及び子どもたちに見ていただいています。どうしても人手がないとできないことですので、実際の目的とか効果にかんがみまして、これはそれだけの成果等を上げていると思っております。

○ **宇田川委員**

私も去年見せていただきました。地域と一体になっているというか、家族の方と一緒にあって、特に担当されている部署の方は、あれだけやるのは大変だったのではないかと思うぐらい、ものすごく力が要りますね。1度見るといいのではないかなという気がします。それと、私は音楽会が、規律とかしつけ教育というか、音楽だけではないものを感じました。非常に感激した1日だったと記憶しています。

○ **五十嵐委員長**

次に(3)市川市児童生徒音楽会の開催について報告してください。

○ **指導課長**

資料は16ページになります。この事業は、市川市立各小・中・特別支援学校の児童生徒の音楽水準の維持向上を図るとともに、発表会を通して保護者並びに市民にも広く音楽教育に対する理解を深めることを目的に、昭和21年開始以来、今回で64回目の開催となります。本年度は10月30日木曜日、31日金曜日の2日間、市川市文化会館大ホールにおいて開催されます。毎年、市内全小・中・特別支援学校が参加し、昨年度参加者総数は4,000人に上りました。保護者を初め、市民の入場者も各日1,000人以上でございます。2

日間の午前の部の最後と午後の部の最初に市川市にゆかりのある演奏家を招待して、プロの演奏を聞くとともに、子どもの夢を実現しようとする話を聞く機会を設け、子どもたちの豊かな感性や情操、勤労観、職業観を育ててまいります。30日は小関妙さん、郁さん姉妹のバイオリン演奏、31日は小川奈緒さんのクラリネットの演奏を予定しています。以上でございます。

○ **五十嵐委員長**

このゲストはお二方とも市川市出身の方ですか。

○ **指導課長**

小関さん姉妹は浦安市、小川さんは市川市出身です。二人とも昨年度、市川市文化会館主催の新人演奏会で入賞された方です。年齢的にも、子どもたちに大変近い年齢の方を選んでおりますが、子どもが、市川市にゆかりのある先輩、お兄さん、お姉さんに当たる方がこんなふうに活躍しているなら、自分もそういうふうに夢を実現したい、やりたいという感想も、実際に聞いた子どもたちから寄せられております。

○ **五十嵐委員長**

身近な人でいいですね。次に(4)市川市児童生徒科学展について報告してください。

○ **指導課長**

9月13日土曜日から15日月曜日に開催いたしました児童生徒科学展についてご報告いたします。資料は17ページになります。今年度の出品総数は、小学校が537点、中学校が78点、合計総数615点で、市内小中学校全校からの出品がございました。総数では、昨年度より45点ほど下回っております。作品の種類で見ますと、科学論文が最も多く374点を数え、全体の半数以上を占めております。次に科学工夫作品が155点、標本が86点の出品でございます。科学展当日の入場者数は4,822名と例年を大きく上回っております。これは、本年度が3日間開催であったこと、また、各学校でも宣伝をしてくださったおかげであると思っております。作品としましては、「野々江公園の虫の研究」や「ぼくとナナフシの365日」など、じっくりと時間をかけてデータをとり考察をした論文、また、「リニアモーターカー」や「行徳あばれみこし」など、よく考え工夫を凝らした楽しい作品、また「虫のかくれが研究」や「ぼくの家近くに生える雑草たち」など、身近な植物に着目をして丁寧に仕上げられた標本など、訪れた人たちは豊かなアイデアや地道に取り組んだ研究内容に感心しておりました。また、中学生の作品には「テニスのスコアボード製作」や「貝標本」など、審査員をうならせる作品もありました。優秀作品29点は、今月18日、19日に県総合教育センターで行われる県の科学展に出品いたします。以上でございます。

○ **吉岡委員**

去年も行かせていただいたのですが、素晴らしい作品ばかりで、行くと感心します。ただ、標本について、ここに書いてある金賞の作品がございませぬけれども、標本というのは表彰はありましたか。

○ 指導課長

ございます。標本については、この後の県の作品展がないので、市で終わってしまいますが、科学論文、工夫作品については、この後、県の作品展がございませぬので、県出品という形で書かせていただいております。

○ 五十嵐委員長

毎年楽しみにしております。また県の結果が出たら教えていただければと思います。次に(5)平成20年度「成人の日の行事」実行委員会の経過について説明してください。

○ 生涯学習振興課長

資料の18ページをお願いいたします。初めに、1の前回検討中の事項の報告でございませぬが、平成20年6月9日から9月24日までの間、6回の実行委員会を行っております。まず、(1)のサプライズ出演者の件でございませぬが、市川市出身の藤田志穂さんに決定しております。資料のプロフィールを参考にさせていただければと思います。現在、歌手活動は休業中とのことですが、講演内容は、新成人へのメッセージとギャルよさこいソーランで現在交渉しております。現段階では正式に契約しておりませぬけれども、これは、藤田さんサイドの事務所が式典の企画的な部分に興味を持っておりまして、実行委員と演出方法など、1度協議してからがいいとの要望を受けたからでございませぬ。今後の実行委員会の中で調整し、具体的な内容が決まり次第、また報告させていただきたいと思っております。次に、(2)の新成人参加者記念品についてでございませぬが、今年度はタンブラーに決定いたしました。おしゃれでエコを意識した水筒と考えておりまして、今の時代に即した記念品かなというところでございませぬ。次に、(3)の式典の構成についてでございませぬが、11時からの式典の開始と12時30分の式典終了は確定したところでございませぬ。構成的には実行委員の企画を現在検討しているところでございませぬ。以上でございませぬ。

○ 五十嵐委員長

ギャルよさこいソーランとは何ですか。予算の300万円の範囲内ですか。

○ 生涯学習振興課長

私も見たことがありませんけれども、ギャルがよさこいソーランを踊るのではないかと思います。それと、300万円というのは、先ほど報告がありましたように、本人も出演料的にはそんなに高い話ではないが、事務所とどういふ内容、プログラムにするかによって金額も決めていきたいということ

す。ですから、いきなりぽんと300万円でやってくださいという話ではなくて、その内容を企画する中で、ほかの記念品のほうにも回すこともできますし、それは今後、向こうからも内容を詰めて契約に持っていきたいという申し入れがあったという状況でございます。実行委員会と事務所で相談しながら内容も金額も詰めていきたいと思いますという段階に来ているということです。

○ **宇田川委員**

このよさこいソーランというのは、お正月の出初め式とか、この間のいちかわ産フェスタの開会式で見たことがあります。これは行徳の団体です。地元の大会に出るような人たちが集まって、相当練習されているようです。もしかすると違うギャルよさこいソーランが来るのかもしれませんが、市川でやるときは、例えば消防の出初め式には必ずその人たちが来ていますから、もう定着してきているのではないですか。

○ **五十嵐委員長**

それではまた、逐次報告をしていただきたいと思います。ありがとうございました。次に(6)考古博物館企画展の開催について説明してください。

○ **考古博物館長**

19ページになります。これはポスターの縮小版です。歴史博物館による企画展「市川の石造物—石造物が伝える地域の歴史—」についてご説明いたします。今回の企画展は、今月19日から11月末まで歴史博物館2階の特別展示室において、市川市内にあるさまざまな石造物について紹介することになります。石造物は信仰の対象になっている石仏や石の祠、あるいは神社やお寺の境内などにある灯籠や鳥居、狛犬、記念碑、道端に立つ道しるべなど、種類も形もさまざまなものがありますが、それらを建てた地域の人々の生活や信仰の歴史を静かに伝えております。歴史博物館では、昭和61年度から平成19年度までの22年間の歳月をかけて石造物1基ごとに、その写真を撮って、大きさはかって、記載されている文字のすべてを記録して、市内全域2,500基の調査を行いました。今回の企画展では、市内にあるさまざまな石造物のうち約170基について、写真パネルで紹介するとともに、その石造物にかかわる資料を展示いたします。ふだん何気なく見過ごしているような石造物も、注意深く見直してみると、しっかりと歴史を伝えてくれています。そんな新しい町の発見ができるような企画展であります。また、関連行事としまして、展示説明会、そのほか記念講演会や歴史博物館周辺の石造物の見学会を予定しております。なお、調査した成果については、石造文化財調査報告書として「市川の石造物」として刊行いたします。以上でございます。

○ **五十嵐委員長**

行ってみたいですね。この近くには何かありますか。

○ **考古博物館長**

近くでは葛飾八幡宮の鳥居や梵鐘があります。実際に今、市川で一番古いのは庚申塔でありまして、釈迦如来で曾谷の安国寺に1656年、江戸時代、四代将軍のころの明暦2年、今から352年前に設置されたものがございます。

○ **五十嵐委員長**

ぜひ大々的にPRをしてください。次に(7)自然博物館夏の企画展について説明してください。

○ **自然博物館長**

資料の20ページから21ページをごらんください。この企画は、当館の事業であります「名前をしらべる会」及び「名前をしらべる会50回記念展」を膨らませ、市川市文化振興財団と連携して、3つの展示会を関連づけ、同時に開催することとしたものであります。初めに、一番上の「名前をしらべる会50回記念展」についてご報告いたします。この展示会は、当館の主催で7月18日から9月7日まで、自然博物館特別展示室で開催いたしました。展示は名前をしらべる会50回の歩み、標本の種類や作成方法についての実物資料などで構成いたしました。開催期間中の入場者数は1万2,206人、標本作成会の参加者は合計で27人、本年度の「名前をしらべる会」の参加者は26人でした。次に、「市川の自然を見つめ続けて」についてご報告いたします。この展示会は、文化振興財団と教育委員会の共催で7月19日から9月7日まで、木内ギャラリーで開催いたしました。展示は市川学園教諭でいらした故石井信義先生が描かれた動植物の細密画や、市内の植生断面図と、先生が愛用された観察器具、スケッチ用具等で構成いたしました。開催期間中の入場者数は1,216名、野外観察会の参加者が24人でした。最後に、「英国の植物画の世界」についてご報告いたします。この展示会は、文化振興財団の主催、自然博物館の協力で7月19日から9月7日まで、芳澤ガーデンギャラリーで開催いたしました。展示は18世紀から19世紀にかけて英国で描かれた植物画の版画に、自然博物館で作成した植物標本も加えて構成いたしました。開催期間中の入場者数は1,855人、イベントの参加者数は合計で241人でした。なお、各企画とも新聞等でも取り上げていただきましたが、一例として、「市川の自然を見つめ続けて」に関する記事を21ページに印刷していただいております。後ほどごらんいただければ幸いです。決して交通が便利という立地ではない3会場での展示ではありましたが、博物学という関連で初めて文化振興財団と共同で企画し、準備した展示会でした。共同で企画したことにより、それぞれの展示に幅を持たせることができ、また、広報の効果や効率を高めることができたなど、メリットは大きかったものと考えております。今後も共同開催のメリットを生かし、文化振興財団のみならずいろいろな機関との

連携を深め、よりよい展覧会を企画できるよう努力していきたいと考えております。以上でございます。

○ **五十嵐委員長**

ぜひ次回もよい企画をお願いいたします。最後に、全国学力・学習状況調査の開示請求について説明してください。

○ **指導課長**

平成20年度全国学力・学習状況調査について、公文書公開請求が出ております。請求については、大きく4つございます。1、市の調査結果概況、2、市の設問別調査結果、3、大野小学校の調査結果概況、4、大野小学校の設問別調査結果でございます。前回と同様な対応を考えております。以上でございます。

○ **五十嵐委員長**

わかりました。昨年度も出た、その原則にのっとりということですか。

○ **指導課長**

そのとおりでございます。

○ **五十嵐委員長**

そのように趣旨にのっとり、できるところは開示していくということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。本日の議事は以上でございますが、委員の皆様から何かございますか。

○ **他の委員**

ございません。

○ **五十嵐委員長**

それでは、これをもちまして平成20年10月定例教育委員会を閉会いたします。

(午後3時10分閉会)